

# 学び

県内の大学、短大、専攻が連携し、発足三年目を迎えた「大学コンソーシアムあきた」。大学や短大が互いに他校の学生に授業を公開して単位取得を認める単位互換制度の運営だけでなく、地域貢献の一環として、高校生が大学などの講義を受け、高大連携事業や、社会人を対象とした講座を企画。一般の人が地域の知的財産として大学や短大を活用できる事業を行っている。本年度は、来月から本格的に事業がスタートする。

高校生が対象の高大連携事業は昨年度、秋田市大、雄物山大、前橋期合せて二十七講義を開講。県内各地から延べ五百六十九人が申し込んだ。大学はその特徴を高校生にアピールでき、高校生は進路のミスマッチを防ぐことができると、双方に好評。昨年度は横手市で出張講座を開いたが、大学や短大がない地域でも開催していく予定だ。

社会人向けには二種類の講座を実施。連携公開講座は、一つのテーマについてリレー式に複数の教員が

あおむす。コンソーシアムに加盟するすべての機関に企画してほしいと話す。これらの社会人向け講座は、働いている人も参加しやすいよう、平日夜や休日に実施。秋田大学が平日夜に開いた父親向けの育児講座には、スポーツの若いお

ろが聞くことには、これまでは短大が会場だったので敬遠していた人も、この度は、より気軽に参加してほしいと、トークン教授、十藤勉先生の形式を引き継ぎ、各回ともグループディスカッションを設ける。企画部でも「講師と受講生

が話し合いを持つのは新しい試み」と期待を寄せている。

コンソーシアムは、県内の大学や短大などの連携を深めることにも、各校が主体的に知的財産を開放、県民に還元することを目的に、十七年三月に発足した。現在は十三校が加盟している。企画部では「大学などが生き残るためには、地域に研究内容を還元してもらい、提供していくことが必要。県民にとっても、学生だけでなく、生涯教育を受けられる機会を拡げていきたい」としている。

講座などについての問い合わせは、カレッジプラザ内大学コンソーシアムあきた企画部 ☎018-8835164523

## 県民に積極還元

### 来月から社会人講座

## 新たな試みに 講師と討論も

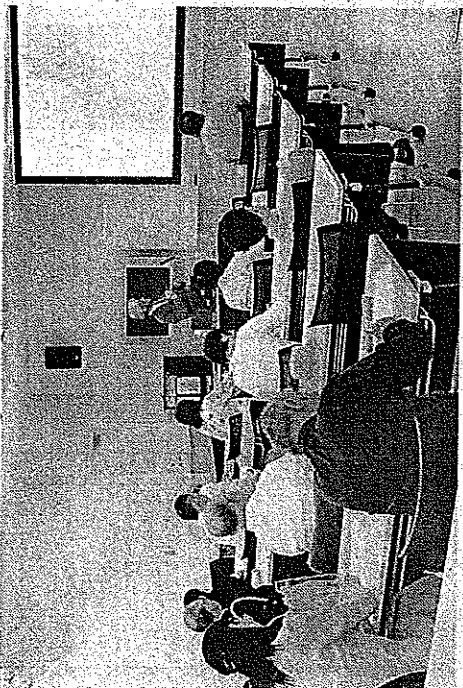
## 大学コンソーシアムあきた3年目

講義。昨年度は「観光立県を推進した二高輪化対策」のテーマで、各回別の講座を行い、合わせて約百六十人が受講した。

一方、各校が一六回の講座を企画する社会人講座では昨年度は、県内の大学で唯一法学部を持つ秋田経済法科大学（現ノースアジア大学）が法律講座を開いたり、国際教養大学の外国人教授がアメリカ音楽について講義したりと、業種から教養まで各校が特色ある講座を行った。企画部は各校はそれぞれにリソースが

たくさんあった。来月十二日から、本年度の社会人講座が始まる。第一弾は、聖徳短大のアノベリゼ・トークン教授による四回講座「生と死を考える―より美しく生きるには―」。

同講座はトークン教授が昨年度まで二十年間、生死観などをテーマに同短大で一般市民向けに開いてきた「王冠勉強会」を引き継いだもの。本年度は新たな参加者を募るべくコンソーシアムの呼び掛けに感応交通の便のいいカレッジ



昨年5月に開かれた社会人講座。幅広い年代が参加した秋田市のカレッジプラザ

# 園芸療法で生活充実

## 高齢者に効果や事例紹介

秋田で講座

20-1-17(木)河北

園芸活動や植物との触れ合いを通じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくりにつなげようと、「園芸療法」に関する公開講座が十五日、秋田市中通のカレッジプラザで開かれた。高齢者を中心に約二十五人が聴講し、実践活動の内容に耳を傾けた。

秋田県大潟村の特別養護老人ホームで、二〇〇一年から継続的に園芸療法に取り組んできた秋田県立大の神田啓臣准教授（花き園芸学、社会園芸学）が、具体的な取り組みを紹介しながら、効果や課題などを話した。神田准教授は、バケツを小さな田んぼに見立て

て田植えや稲刈りを行った事例を紹介。部屋に閉じこもりがちだった高齢者が明るくなった様子や、それまで以上に会話するようになったことを報告した。また、介護者が入所者たちに適切なアドバイスや手助けを行いながら作業を進めていくことや、



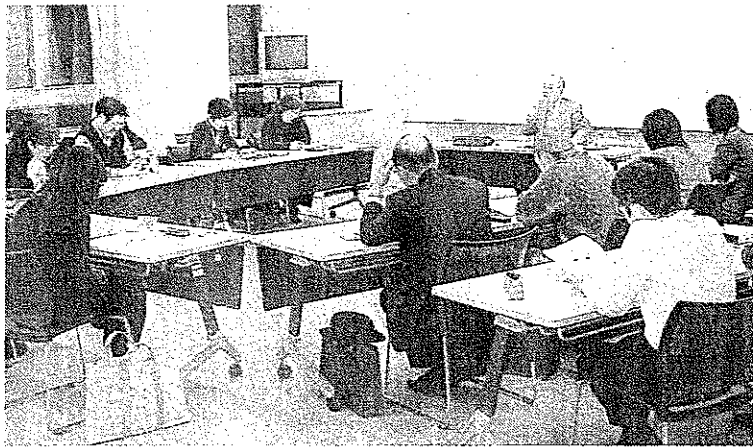
園芸療法をテーマに開かれた公開講座

同じ地域で暮らす、介護者や子どもたちの参加を必要としない高齢者によって活動の幅を広げて

いくことの必要性を強調した。課題としては、園芸療法に限られた施設や病院でしか行われていないことを指摘。「出前園芸講座などの形で、手軽にどんな場所でもできるように普及していくことが大切だ」と話した。園芸療法は一九九〇年代、米国の実践例が日本に紹介され、高齢者とガーデニングブームを背景に、各地に広がっているという。

大学コンソーシアムあきたの公開講座

# 大人の向学心 満足



「日本人のための、英語講座」をテーマに開かれた公開講座—昨年11月20日

## 双方向性 内容濃く

### 生活に役立つ3コマ授業

秋田県内の大学、短大、高専など十三の高等教育機関で組織する「大学コンソーシアムあきた」(理事長・三浦亮秋田大学長)が秋田市で開催する社会人向けの公開講座が、県民の貴重な生涯学習の場になっている。他の大学コンソーシアムでは一度限りの公開講座が多いのに対し、秋田は一つのテーマを複数回繰り返し返して学習する方式を採用しており、講師と受講者の、双方向性が喜ばれている。

「幅広く専門的な内容を幅広く提供する」「手挙げ方式」を提供してくれ、講師と受講者の議論にも発展するような意義のある講座「だ」。スキルアップのために初年度から毎年、複数回受講している秋田市の団体職員杉本勇人さん(三三三)は、社会人講座の利点をこう指摘する。

公開講座は秋田市中通のカレッジプラザで、二〇〇五年八月にスタートした。医療や健康、経済、語学、教育、科学、芸術、文化、法律など幅広いジャンルからテーマを選び、ほぼ月一度のペースで開講している。

講師はコンソーシアムを組織する大学、短大の

20.1.20(日) 河北

座のコンセプトにしたが、全体的に硬い内容となったため、昨年度から暮らしたに役立ち、楽しみながら学べることを重視している。

現在は秋田市内を中心に少ない時でも七人程度が受講し、定員オーバーになる講座もあるという。

同課の佐藤昭主任は「受講者が興味を持って楽しく熱心に勉強できる環境づくりを考えている。大学側からの提案にとどまらず、事務局が講師の人材を発掘したり、積極的なPRに努めるなど働き掛けている」と話す。

本年度最終の講座は二月一、八、十五日の三コマ。日本赤十字秋田短大

の井上忠男教授と小川里美講師が「世界の紛争地では何が起きているのか」をテーマに開講する。

海洋生物の生態やおいしい調理法を学ぶ講座がこのほど、秋田市中通の明徳館ヒルカシツプラザで開かれた。サイエンスプラザ「食べる生物学―身近な魚介類で美味しく学ぶ生命の不思議」と題された

講座で、普段食卓に上る魚介類を題材に、実物を解剖したり、味わったりしながら、生態や生命倫理について考えまわすこと試みた。

試食へ移行。石井准教授は、ポテトやしょうゆで食べる刺し身のほか、貴身あえ、燻製やバター焼き、酒蒸しなどのレシピを披露。「独特の臭み強いときは、カレー粉でいためる食べやすくなる」などアドバイスした。ホヤ好きの参加者も多く、賞味期限(5月)は「秋田市、公務員」は、「毎年夏にはホヤを食べたいけれど、体の構造を詳しく知ったのは初めて。これまで食べていなかった部分もあって、いると新しい発見でした」と語った。

石井准教授は、現代は生物と真のつながりを知る機会が少ないと指摘。「今は、生物がどうやって食材になるかが見えにくい。食材を生物として知り、ほかの命を食べて人が生きていることを意識して、視野を大きく広げることがしたい。小さい子どもを持つ親世代にも、興味を持ってほしい」と話している。

今月二十一日に第二話「シラスとハマグリ―海洋生態系を知る」、三月十四日に第三話「イカ―背骨のない動物」が開かれる。いずれも午後六時半―八時。参加無料。申し込みはカシツプラザ018-825-5455

# 解剖学び調理、試食も

講義形式ではなく、科学者と参加者が気軽に話してほしいと、県内の高等教育機関の連携組織「大学コンソーシアムあきた」が企画。三回続きます。秋田大学教育文化学部の石井准教授(動物発生学)が「案内人」を務めている。

このほど開かれた「第一話」のテーマは「ホヤ―脊椎動物のルーツ」。石井准教授がホヤの生態や構造などを解説した後、解剖・調理を行った。「ホヤには人間のルーツがある」と石井准教授。人間もホヤも「脊椎動物」の一員。脊椎は、体を支える原始的な器官で、人間は初期の発生段階で脊椎が脊椎に置き換わるが、ホヤは変態して脊椎を失う。ホヤは魚へと進化する一歩手前の段階の生物で、生物の進化などを研究する上で重要な研究対象。県内の主要な大学で盛んに研究されているという。

世界に約三千三百種、日本近海には約三百種い

## 科学者が包丁握る 秋田市で講座「食べる生物学」 食卓の魚介類を題材に

るが、日本でよく食べられているのは、主に東北地方の太平洋側で盛んに養殖されている「アホヤ」と、北海道沿岸のみに生息する「アカホヤ」の二種類。鉄分やグリコゲン、ミネラルが豊富で、抗がん食品としても注目されているという。

図で体の構造を学んだ後、アホヤを使った解剖



石井准教授(写真左)がホヤを解剖、構造を解説した

実習を行った。解剖に用いた器具は、包丁にまな板。石井准教授が手本を見せながら、生きたままのホヤを包丁できれいにさばいた。「上部の突起でアラスの記号のように見えるのが入水孔。アナスのように見えるのは出水孔」「ホヤにはくもグロビンがないので、血液は白い」「胃を覆い隠

すように包む黒っぽい部分は肝臓。苦いので食べにくい」。ホヤの生態から食べ方まで、多岐にわたる解説を聴きながら、参加者も包丁を握った。解剖はそのまま調理、

[秋田] 広域秋田圏のビジネス&カルチャーニュース

# 秋田経済新聞

AKITA KEIZAI SHINBUN

2008年3月17日(月)

2008-2-26(水)



トランセンドSDカード4GB  
プレゼント



## みんなのピックアップ

セカンドライフに神田明神  
カンフーくん来福で拳法も  
音楽好きの夫婦、カフェ開業  
文化放送旧社屋、一部再利用  
グルメサミット記者会見開催  
春の陽気、ポート遊びの姿も  
「びんアワード」に牛乳ビン  
立ち飲みパールで国際交流  
「オーケストラだるま」発売  
難病小児患者の宿泊施設完  
成  
新型ロマンスカー「MSE」  
名称は「淀屋橋odona」  
もっと見る

## みんなのネットワーク

北海道 札幌経済新聞

岩手 盛岡経済新聞

宮城 仙台経済新聞

秋田 秋田経済新聞

群馬 高崎経済新聞

東京 シンヤ経済新聞

東京 六本木経済新聞

東京 アキバ経済新聞

東京 銀座経済新聞

東京 新橋経済新聞

東京 品川経済新聞

東京 市ヶ谷経済新聞

東京 新宿経済新聞

東京 吉祥寺経済新聞

東京 立川経済新聞

東京 町田経済新聞

東京 下北沢経済新聞

東京 自由が丘経済新聞

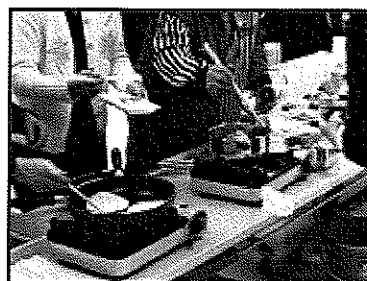
神奈川 ヨコハマ経済新聞

神奈川 湘南経済新聞

長野 松本経済新聞

## ヘッドラインニュース

### 秋田で「食べる生物学講座」－身近な魚介類をテーマに



写真を拡大

講座で教材のシラスとハマグリを調理する受講者

「大学コンソーシアム秋田」(秋田市中通2、TEL 018-825-5455)が開講する市民講座「食べる生物学講座－身近な魚介類で美味しく学ぶ生命の不思議」が定員を超える人気講座となっている。

魚介類をテーマに生物学を学ぶ同講座は、講義に使用した「教材」をそのまま「食材」として料理を楽しもうというもの。先月開講された「ホヤ脊椎生物のルーツ」講座につづいて2回目となる2月21日は、「シラスとハマグリ－海洋生態系を知る」をテーマに開講され、約20人の市民が受講した。

生物学が専門で秋田大学教育文化学部の石井照久准教授による講義は、「ハマグリには2つの貝柱がある」「イワシやアユの幼魚が主体の『シラス干し』に、カニやイカの幼生などが混じっていることがあるが、これはそれらの生物がその海にいる証。食物連鎖の基盤をなす海が健康であることを意味する。食材としても海の栄養分を豊富に採ることができるので人の健康にも良い」ことなどを身近な視点から解説。受講者も顕微鏡で観察するなどし、生物学を楽しみながら学んだ。親子で参加した受講者は「普段何気なく食べている魚介類のことが分かって楽しい。買い物参考にもなった」と話していた。

石井准教授は「スーパーで刺身がパック販売される現在、食がどのような過程を経て自分の口に入るか分からない学生も増えた。そのプロセスや生命の発生を、子どもやその親に伝えたい」と、食卓に並ぶことの多い魚介類を講座の教材に選んだという。

同講座を担当する佐藤昭さんは「市民の皆さんからは縁遠く思える大学の研究も、切り口を変えれば誰でも楽しく学ぶことができる。こういう機会を通じて知識を広げ、日々の生活が潤いを持つものになれば」と話している。

次の講義は、「イカー背骨のない動物」と題して3月14日に開講するが、すでに定員を超えたため募集は行っていないという。

#### 大学コンソーシアム秋田

老舗和菓子店で一般向けに和菓子講習会(秋田経済新聞)

秋田の伝統食「しょつづる」をテーマにスローフード講座(秋田経済新聞)

秋田で無添加の手作り味噌講習会(秋田経済新聞)



# 海の幸おいしく学ぶ

## シラス・ハマグリ・ホヤ...

シラスやハマグリといった食卓でおなじみの海産物の生態を学び、最後は調理して試食。そんなユニークな生物学の講座が、秋田市で開かれている。県内18の大学や短大などでつくる「大学コンソーシアムあきた」の主催。「ふだん食べているものがどんな生き方をしてるかを知り、食の安全や生命の不思議を感じてもらいたい」という。

(岡林佐和)

### 「不思議感じて」 秋田で無料講座

2月21日夕、親子連れや会社員、シニア世代の約25人が、秋田市中通2丁目の「カレッジプラザ」講義室に集まった。登場したのは、秋田大学教育文化学部の石井照久准教授(動物発生学)。

この日のテーマは「シラスとハマグリ―海洋生物の生態を知る―」。まずは大画面を使い、カタクチイワシの子ともであるシラスを含む海の食物連鎖などについて説明。次にスーパーで買ったシラス干しのパックを取り出した。よく見るとカニやヤドカリ、シヤコなどの幼生や、エビ、イカ

などが交じっているという。「いろいろな種類が交じっているほど、海が健康だということなんですよ」。「へー」という声が上がった。

虫眼鏡を手に、一人ひとりのぞき込んだ。「今度から、しょうゆをかける前に見てみよう」と目



石井照久准教授(左)が、ハマグリを手に、体内のしくみを説明する。参加者たちが熱心に見つめた。秋田市中通2丁目で、岡林写す

営業松本勲さん(66)が深い始めた。石井准教授

授がフライパンで調理を始めたのだ。ギョーザの皮でシラス干しとマヨネーズを巻いて焼いた「シラス干しギョーザ」はふだん、おつまみに作っているものだという。

次はハマグリ。ナイフ

でこじ開け、出水管や入水管、エラや心臓など体のしくみを説明する。両親と来た小学3年の湯本崇太郎君(9)も4個開けた。「硬くて難しかった。でも学校の理科よりおもしろい」

開けたハマグリは、酒蒸しにしてみんなの胃袋に入っていた。

「刺し身は切られてトレーに載っているものだ、と思ってる大学生がいるんですよ」と石井准教授は言う。

「食の安全」といっても、海産物がどこにすみ、どの部分を食べているのか、人々は知らなすぎると思っていた。一方、大学コンソーシアムあきた企画部の藤井和明副主幹は「実践を取り入れた科学講座をしたい」と考えていた。

「見て触れて、食べる」ところまでやったらおもしろいんじゃないか」。酒席での企画会議で2人の思いが一致し、今回の講座が生まれた。講義室では水が使えないため、タンクと排水ホースを取り付けて手作りの簡易流し台をつくった。コンロやフライパン、包丁は百円ショップなどでそろえた。

初回の前回はホヤを題材に、体のつくりなどを学んだ後、バターいためや酒蒸しに。次回は最終回で、3月14日に「イカ―背骨のない動物―」がある。体のしくみや生態系を学んだ後、解剖して調理する。参加無料だ。

「寝る前に飲むだけでマイナス15kg」。そんなインターネット上の誇大広告を東京都内の3大学の学生が見つけ、行政による改善指導につなげた。若者が被害にあいそうな不当表示を、若者自身の目で調べてもらおうという都の取り組みで、着々と成果があがっている。

(大隈崇)

## 成果着々 37業者に改善指導

都消費生活部などは昨「やたら」するだけるダイエット商品のサイ

## 寝ている間に基礎体温

### 健康管理

ショーツに挟むだけで、寝ている間に基礎体温を測れる世界初の温度計が開発され、5月に発売される。従来の基礎体温計は毎朝、決まった時間に口の中

### 開発

形Ⅱ写真、キューオーエル提供  
Ⅱで、ショーツのウエスト部分にクリップで挟む。皮膚に接触する部分とパジャマ側の2力所にセンサーがあり、就寝中に10

# 食べる生物学講座

## シラス、ハマグリ…海産物 見て触れて



シラスやハマグリといった食卓でおなじみの海産物の生態を学び、最後は調理して試食——。そんなユニークな生物学の講座が、秋田市で開かれている。県内13の大学も短大などをつくる「大学コンソーシアムあきた」の主催。「ふだん食べているものがどんな生き方をしているかを知り、食の安全や生命の不思議を感じてもらいたい」という。

(岡林佐和)

2月21日夕。親子連れや会社員、シニア世代の約25人が、秋田市中通2丁目の「カレッジシブラザ」講義室に集まった。登場したのは、秋田大学教育文化学部の石井照久准教授(動物発生学)。

この日のテーマは「シラスとハマグリ—海洋生態系を知る—」。まずは大画面を使い、カタクチイワシの子どもであるシラスを含む海の食物連鎖などについて説明。

次にスーパーで買ったシラス干しのパックを取り出した。よく見るとカニやヤドカリ、シヤコなどの幼生や、エビ、イカなどが交じっているとい

ハマグリを手に、体内のしくみを説明する石井照久准教授。参加者たちが熱心に見つめた。秋田市中通2丁目で

## 秋田「食の安全」「生命」考える

20・3・5(木)朝日

う。「いろいろな種類がレーに載っているもの交じているほど、海が健康だということなんですよ」と石井准教授は言う。

「食の安全」といっても、海産物がどこにす

どのぞき込んだ。「今度から、しょうゆをかける前に見てみよう」と目撃者松本勲さん(66)。

教室に香ばしいにおいが漂い始めた。

石井准教授がフライパンで調理を始めたのだ。ギョーザの皮でシラス干しとマヨネーズを巻いて焼いた「シラス干しギョーザ」はふたん、おつまみに作っているものだという。

次はハマグリ。ナイフでこじ開け、出水管や入水管、エラや心臓など体のしくみを説明する。両親と来た小学3年の湯本崇太郎君(9)も4個開けた。「固くて難しかった。でも学校の理科よりおもしろい」

開けたハマグリは、酒蒸ししてみんなの胃袋に入った。

「刺し身は切られてト

初回の前回はホヤを題材に、体のつくりなどを学んだ後、バターいためや酒蒸しに。次回は最終回で、14日に「イカ」背骨のない動物」がある。体のしくみや生態系を学んだ後、解剖して調理する。

## 天声人語

魚偏うまへんに雪と書  
 けはタラ、冬た  
 とコノシロ、で  
 は神は？ 漢字  
 にならって日本

で作られた国字には、魚偏の文字が一番多いという。判じ物さながらの難読ぞろいだが、日本人と魚の深い縁を示す証でもある▼大正の頃は「大国民が食糧の主要なものを海におおいでいる例は他にない」と、欧州の地理学者を驚かせた。ところが近年、かつてない「魚はなれ」が食卓に起きている。さばくところか、さわれない若い人もいるらしい。歯止めをかける取り組みが、各地で芽生えている▼東京の築地市場の一角では「おさかなマイスター講座」が昨秋から始まった。目利きや料理の仕方などを初心者も学べる。11回で12万円余と受講料は高めたが人気は高い。卒業生には、知識を周りに広める「語り部」の期待もかか

る▼秋田での講座は、魚介を生物学的に学んだあと、料理をする。先月は秋田大の石井照久准教授がハマグリあまぐりの心臓やエラの講義をし、酒蒸しにして参加者と食べた。「いただくものの命のさまを知ること、人生の滋味になる」と、料理好きの石井氏は言う▼親が子に伝える「料理」をつづつた、石垣りんさんの詩を思い出す。鱈たらでも鯛たいでも鰯いわしでも鰹かつおでも、丸ごと二匹の姿をのせよく研いだ庖丁をしっかりと握りしめて…頭をブスリと落とすことから教えなければならぬ▼様々な魚偏が、人の命につながる。乱獲を戒めつつ舌鼓を打ちたい。ところで冒頭の「鱈」は秋田の特産ハタハタ。獲りすぎによる激減の教訓を残した美味くて苦い魚である。



# 読売センター

秋田 東部 本 庄  
 秋田 南部 土 崎  
 秋田 西部 追 分  
 秋田 北部 追 分  
 秋田 新 屋 秋田ニュータウン

# 一 県 央 版

# mini おらほ

県央地域に密着した記事を地域のY.Cがお届けする情報紙です  
 ホームページ「よみうりこまち」アドレス <http://akita.yc1.co.jp/>

# 読売新聞 読売センター

ご購読のご用命はお近くの  
 読売センターか秋田県読売会まで

## 0120-136693

発行/秋田県読売会中央支部

編集・制作/翔クリエイティブ・イメージ  
 TEL 018-845-8021・FAX 018-845-8022

# 町全体が おひな様一色に染まる

## 「由利本荘ひな街道」

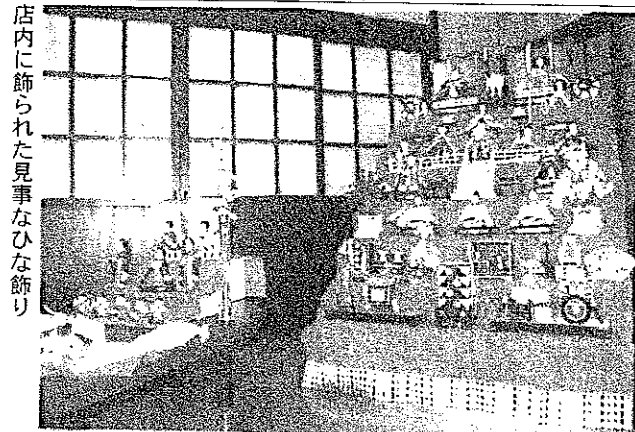
由利本荘市内の資料館や美術館、一般家庭に残されている古雛を展示・公開し、マツプを手になしながら観光客に「ひな巡り」を楽しんでもらおうと、合同企画展「由利本荘ひな街道」が2月9日から開催され好評を博している。

4月20日まで行われるこのイベントは、3月18日から23日までは「ひなウィーク」と称してひな菓子作り体験やひな巡りバスツアーなどの催しも予定されている。注目されるのは矢島・大井家に伝わる江戸時代の享保雛。実に70年ぶりの公開となるだけに、多くの人たちの話題を呼びそうだ。



おひな様にちなんだ手作り和風小物

～由利本荘市～



18世紀後期、古雪港や石脇港が栄えた本荘は北前船の寄港地だった。江戸時代の藩主や豪商が珍重した質の高い雛人形も、多くの品物とともに上方からもたらされた可能性が高いという。

皆川吉晴さん・みどりさん夫妻が切り盛りしている、JR羽後本荘駅前にあるお好み焼きと郷土料理の店「わらべ唄」では、みどりさんの姉のしゅうとめの誕生日に用意された大正初期の八橋人形をはじめ、和紙や織部焼で作られた見事なおひな様が飾られている。

昨年4月、皆川さん夫妻は新潟県村上市の「町屋の人形さま巡り」を見に行つて感銘を受け、地元で開催されるこの行事に参加することを思い立った。「町おこしとして活気づくように、みんな



ヤリイカを手にし解説する石井准教授

秋田市中通のカレッジプラザで3月14日、「食べる生物学」と題したユニークな講座が開講された。秋田の大学・短大などによる連携組織「大学コンソーシアムあきた」が、広く県民に学びの機会を提供するイベント「サイエンスプラザ」の一環として開催したものだ。

「ホヤ」「シラス」とハマグリ」に続く第3話となるこの日のテーマは、「イカ」背骨のない動物

「ユニークな講座で楽しく勉強を  
 食べる生物学―身近な魚介類で美味しく学ぶ生命の不思議―  
 カレッジプラザ・秋田市中通」

「秋田大学教育文化学部石井照久准教授が案内人を務める。生物学を専門とする石井准教授だけに、実際にヤリイカを手にしての丁寧な解説には深みがある。「空気に触れると血液が青くなる」、「2つの「えら心臓」を含む3つの心臓がある」など、イカに関する豆知識も披露。20人の受講者は熱心に耳を傾けていた。



解剖したヤリイカを興味深く観察する親子

続いて各テーブルに分かれてイカを解剖。受講者は講義内容を復習する。勉強が終わるとお楽しみのお食タイム。妙めてバターしよらゆなどで味付けしたイカを全員で試食した。受講者の一人で秋田市広面の石川道子さんは、「料理教室の講師をやっていますが、石井先生が魚介類を科学

でにぎやかに盛り上げていきたくです。みなさんでぜひ見に行ってください」とみどりさん、元気がいっぱい話してくれた。

同店では企画展に合わせ、ちらし寿司やハマグリ吸物のセツトになった「ひな祭り御膳」を提供するほか、携帯ストラップ、古布で作ったひな飾りなど、手作り和風小物の販売も行い来店客に喜ばれている。

同店の展示とひな祭り御膳提供は3月30日まで。春風に吹かれながら、ひな街道をのんびり散策してみるのも楽しそうだ。

「チエコアニメの  
 パネル展示会&アニメ上映会  
 ポートタワーセリオン」

アニメーションの故郷、チエコの巨匠ヨゼフ・パレチエクの「アニメパネル展示会」が2月18日から、秋田港ポートタワーセリオン3階のギャラリーを会場に開催され好評を博している。会期中は、キュートなキャラクター、ファンタジックで愉快痛快な世界最高峰のアニメーションが見られる。ポストカード、ヨゼフ・パレチエクのオリジナル

的に説明して下さるのでとても面白いですね」と、笑みを浮かべながら話した。石井准教授は、「殺生して食べる」ということを自分たちで考えてもらえたら、我々は同じ生態系の中にある生き物なのですから」と述べ講義を締めくくった。

大学コンソーシアムあきた企画部の藤井和明副主幹は、「県民の関心が高く評判のいい講座なので、また来年度の開催予定に組み入れたいですね」と話している。

ルグッズや絵本なども販売している。(入場無料)  
 3月22、23、31日は、2階のセリオンホールにて、アターでアニメ上映会も予定している。一日4回の上映。鑑賞料は500円。上映日には仕掛け絵本の販売も行う。会期は3月31日まで。

問い合わせは、同会主催の秋田県貿易(電話018-857-3381)、または、上映協力のアットアームズ、イナダフィルム(電話018-839-1456)まで。

# 大学コンソーシアムあきたから公開講座情報のお知らせ

秋田県内の大学・短大等の連携組織「大学コンソーシアムあきた」は、社会人・シニア世代から中高生まで幅広く、県民の皆様へ多様な「学び」の機会を提供しています。

平成19年度後半に実施する講座・イベント情報をお知らせしますので、ぜひ一度、秋田の大学が結集してお送りする「知の世界」にふれてみませんか！

## 大学コンソーシアムあきたとは……

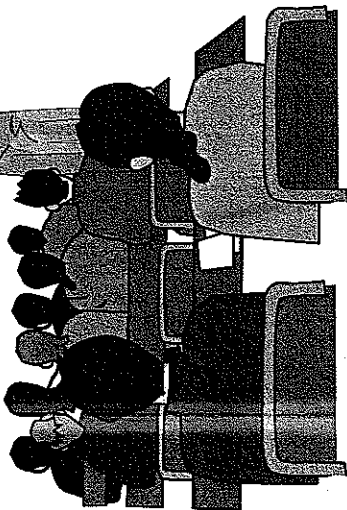
平成17年3月、秋田県内の大学・短大など高等教育機関が相互に連携して地域に貢献する活動などを進めるために設立された団体です。現在、県内の13高等教育機関が全て加盟しています。

### (加盟機関)

秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田看護福祉大学  
秋田公立美術工芸短大、秋田栄華短大、日本赤十字秋田短大、聖霊女子短大、聖園学園短大  
秋田工業高等専門学校、放送大学秋田学習センター、秋田職業能力開発短期大学校



大学コンソーシアムあきた  
公開講座



講座会場は

## カレッジプラザ

(秋田市中通2丁目1-51明徳館ビル2F)

受講申込み、お問い合わせ

電話:018-825-5455 FAX:018-836-5388

e-mail:info@consortium-akita.jp



# 社会人講座

主に社会人の方を対象に、暮らしや仕事に役立つ実学分野から、知を楽しみ教養分野まで各種の専門的な講座をお送りします。  
(受講料あり。受講申込みいただいた方へ講座ハンフレットや受講案内をお送りします)

講座はそれぞれ定員が異なりますのでご注意ください。受講申込みは講座開講日まで受け付けますが、定員に達したときは受講できない場合があります。

## 「経営とデザイン」(5回シリーズ 定員20名)

企業経営・商品開発におけるデザインの活用について実践的に学びます (受講料2,000円)

講師 秋田公立美術工芸短期大学 五十嵐 潤 教授

①10月24日(水)、②11月7日(水)、③11月21日(水)、④12月5日(水)、⑤12月19日(水) pm6:30-8:00

## 「経済がわかるビジネスに活かす!経済記事の読み方」(3回シリーズ 定員50名)

日経新聞を題材に新聞の経済情報の読み方・活用方法を解説します (受講料1,200円)

講師 国際教養大学 勝又美智雄 教授、山本尚史 准教授

日本経済新聞社 丹治信広 仙台支局長

①11月5日(月)、②11月12日(月)、③11月19日(月) pm7:00-8:30

## 「インドネシアのことばと文化」(5回シリーズ 定員20名)

近年注目が高まるインドネシアの文化と言語の入門講座 (受講料2,000円)

講師 秋田大学 三宅良美 准教授

①11月8日(木)、②11月15日(木)、③11月22日(木)、④11月29日(木)、⑤12月6日(木) pm6:30-8:00

## 「日本人のための英語講座—実践で学ぶ発音の基礎—」(5回シリーズ 定員20名)

英語の確かな基礎力をみがくための日本人向け発音レッスン (受講料2,000円)

講師 秋田大学・秋田県立大学 三浦順治 名誉教授

①11月20日(火)、②11月27日(火)、③12月4日(火)、④12月11日(火)、⑤12月18日(火) pm6:30-8:00

## 「シルクロードの仏教美術」(5回シリーズ 定員40名)

インドから日本に至るシルクロードの仏教美術の足跡を学びます (受講料2,000円)

講師 秋田公立美術工芸短期大学 井上 豪 准教授

①11月20日(火)、②11月27日(火)、③12月4日(火)、④12月11日(火)、⑤12月18日(火) pm2:30-4:00

## 「児童文化と教育・保育」(集中講義 定員40名)

絵本や紙芝居などの児童文化の教育・保育への活用を実演を交え学びます (受講料1,200円)

講師 聖園学園短期大学 腰山 豊 教授

1月19日(土) ①pm1:00-2:30、②pm2:40-4:10、③pm4:20-5:50

詳しい講座情報は大学コンソーシアムあきた公式ホームページからどうぞ。HPから受講申込みもできます。(この他の大学公開講座情報もご覧いただけます)  
URL <http://www.consortium-akita.jp>

# 連携公開講座

受講無料

## 「秋田元気力講座」

地域格差が広がるなか、これから秋田の活力を高めるにはどうすればよいか—各分野の専門家が秋田を元気にするための提言を行います(11回シリーズ・各回定員150名)。

- 第1回 「「ごまち依存症横断」から脱却せよ!」10月27日(土) 13:30~15:00  
講師 秋田県立大学生物資源科学部 佐藤 敦 特任教授
- 第2回 「夢は対岸から—地域活性化施策:あなたの力が必要ですよ!」10月9日(金) 18:30~20:00  
講師 元秋田経済法科大学経済学部教授 千葉 康弘 氏
- 第3回 「地域おこしのエネルギーをどう組み立てるか!」11月14日(水) 18:30~20:00  
講師 国際教養大学国際教養学部 勝又美智雄 教授
- 第4回 「秋田県の地域経済活性化策」11月18日(日) 13:30~15:00  
講師 ノースアジア大学経済学部 金子 慧 講師
- 第5回 「地産地消で地域を元気に!」11月20日(火) 18:30~20:00  
講師 秋田県立大学生物資源科学部 谷口吉光 教授
- 第6回 「地域住民参加による美しい秋田の川の創造」11月22日(木) 18:30~20:00  
講師 秋田県立大学生物資源科学部 松本 聡 特任教授
- 第7回 「アザインは環境のない言葉—日韓交流活動を通じて—」11月29日(水) 18:30~20:00  
講師 秋田公立美術工業短期大学 宮能 石繁 准教授
- 第8回 「グリーン・ツーリズムの可能性:農業と観光の融合した農村社会」12月1日(土) 13:30~15:00  
講師 秋田県立大学生物資源科学部 荒畑 豊 教授
- 第9回 「地域力の再認識とその活用」12月8日(土) 13:30~15:00  
講師 秋田大学工学資源学部 坪井ひろみ 准教授
- 第10回 「人口減少に負けない秋田の元気なまちづくり」12月13日(木) 18:30~20:00  
講師 秋田大学教育学文化学部 島澤 諭 准教授
- 第11回 「途上国援助と市民活動」12月21日(金) 18:30~20:00  
講師 国際教養大学国際教養学部 森園 浩一 教授

## 「閉るくしなやかシルバライフ」

高齢化社会を明るく楽しく豊かに過ごすにはどうすればよいか—健康・福祉から文化・農業・法律まで幅広く役立つ知恵をお送りします(9回シリーズ・各回定員150名)。

- 第1回 「語り伝えたい秋田のことば」11月10日(土) 13:30~15:00  
講師 秋田大学教育学文化学部 日高 水穂 准教授
- 第2回 「高齢者農業の可能性」11月24日(土) 13:30~15:00  
講師 秋田県立大学生物資源科学部 荒畑 豊 教授
- 第3回 「災害時における高齢者生活支援」12月20日(木) 14:00~15:30  
講師 日本赤十字秋田短期大学 村上 照子 教授
- 第4回 「メタボリックシンドロームの予防について—主に「食」との関係から」12月21日(金) 15:00~16:30  
講師 秋田県立短期大学 佐藤 美 教授
- 第5回 「すこやかにさわかやかに高齢者の支援と財産管理」12月22日(土) 13:30~15:00  
講師 ノースアジア大学法学部 古田 重明 特任教授
- 第6回 「共に楽しくボランティアを—育児支援と老人施設訪問—」1月9日(水) 13:30~15:00  
講師 聖園学園短期大学 腰山 豊 教授
- 第7回 「〜園芸療法〜園芸をしながら健康づくり・生きがいづくり」1月15日(火) 15:00~16:30  
講師 秋田県立大学生物資源科学部 神田 啓臣 准教授
- 第8回 「暮らしに役立つ介護講座」1月28日(月) 14:00~15:30  
講師 秋田看護福祉大学看護福祉学部 渡部 誠 准教授
- 第9回 「心身の活カアツ」2月6日(水) 14:00~15:30  
講師 ノースアジア大学教養部 伊藤 護朗 教授

# 「希望学」と地域の未来

講師 東京大学社会科学研究所 玄田有史 教授

12月15日(土) 15:00~17:00

●「希望を科学する」ことをテーマとする「希望学」の提唱者として著名な玄田有史氏を迎え、東京大学「希望学プロジェクト」の成果から、現代社会における「希望」の姿、そして「地方・地域における「希望」の未来」について講演します。

【講師紹介】玄田有史(けんた けつし) 東京大学社会科学研究所教授 1964年島根県生まれ。東京経済学部卒。学習院大教授、東京大学助教などを経て現職。著書に「仕事のなかの曖昧と不安」(中公文庫、2005年)、「希望学」(中公新書、2006年)など。

特別講演会  
定員150名

## 高校・中学校の皆様へ……

大学コンソーシアムあきたでは、高校生や中学生を対象にした大学教員による授業も実施しています。学校関係者の皆様はぜひご活用ください。

### ■高大連携授業

高校生を対象に、大学の講義にふれ進路選択の参考としてもらうための企画授業です。  
毎年度、前期(5月~8月)と後期(9月~11月)にそれぞれ10~15科目(文系・理系各科目や看護・福祉・保育など)をカレッジシラバズなどで実施しており、県内の高校生は誰でも参加できます。  
※受講生募集は各開講時期にあわせ県内各高校にご案内しております。

### ■中大連携授業

中学校の総合学習の時間を活用して行う、大学教員による出前授業です。  
子ども達が科学的なものへの考え方や問題の解決法などを体験し、「自ら考える力」をやることを目指します。  
※各中学校からのご要望に応じて授業内容をアレンジしてご提供します。

